第１２回府中市生涯学習審議会会議録

１　日　時　令和３年２月２２日（月）午後１時～午前３時１５分
２　場　所　府中駅北第２庁舎　３階会議室
３　出席者（敬称略）
⑴　委員１０名
大谷久知委員、木内直美委員、佐野洋委員、田頭隆徳委員、立石朝美委員、津田仁委員、中村洋子委員、長畑誠委員、福田豊委員、渡辺たき子委員
※岩久保早苗委員、乙津俊博委員、友田照子委員、藤井孝弘委員、渡邊和子委員欠席
⑵　職員４名
二村文化生涯学習課長、柏木生涯学習係長、諫山事務職員、山本事務職員

４　報告事項
⑴　配布資料の確認
ア　資料１　第１１回府中市生涯学習審議会会議録（案）
イ　資料２　答申（案）（見え消しあり）
ウ　資料３　答申（案）

⑵　前回議事録の確認
各委員に校正を依頼した前回議事録（案）について、市民に公開することが了承された。

５　審議事項
⑴　第３次府中市生涯学習推進計画の具体化に向けて
会長：　資料２は、皆さまから事前にいただいた意見をもとに作成した「答申（案）（見え消しあり）」となっている。そして資料３は、タイトル・名簿・会議経過をつけた「答申（案）」である。答申は、資料３の形で提出することになる。まず変更点等について、簡単に説明させていただく。
基本施策２の２「実行委員会等の設置」について、議論が煮詰まっていない中で、具体的なことまで書くのではなく、今期は実行委員会等を立ち上げることへの提案にとどめ、次期以降で具体的な立ち上げ方や、メンバー、内容等

について議論したほうがいいのではないかと思い、項目を本文に加えさせていただいた形に変更させていただいた。

また、基本施策１「誰もが学べる環境づくり」の「２　さらなる『共助』の推進のため、コミュニティスキルの向上を図る講座の実施」についてだが、この部分と実行委員会との関係性をあまり話していなかった。私の理解では、実行委員会と関係してくると思っている。実行委員会部分内容及びコミュニティスキルとの関係性について、ご意見をいただきたい。

委員：　事前の資料送付の際にコミュニティスキルについてわかりにくいというご意見があったが、自分も同感である。注釈に少し書いてあるくらいのため、コミュニティスキルの本当のねらいがわからない。そのため、もう少し丁寧に説明すべきである。そして、施策２の実行委員会でコミュニティスキルに関連した企画を行うべきであるという表記はした方が良いのではないか。

会長：　基本施策２の２の最後に、「基本施策１で提案したコミュニティスキルに関する講座についても検討していく」という文を追加するのはどうか。

委員：　いろいろな表記の仕方があると思うが、冒頭に追加するというのも１つの選択肢としてあると思う。「コミュニティスキルに基づいた新たな展開に向けて」という形では不足だろうか。

委員：　実行委員会の設置の方法だが、答申（案）に記載されている内容は理想の形ではあるが、いきなりこの形に持って行くのは困難なのではないか。まずは、生涯学習センター、市民活動センタープラッツ、文化センター、生涯学習ファシリテーターで実行委員会を作り、そこで企画を行う。そして、そのテーマに沿った団体を呼んで一緒に行う形が良いと思う。一番大事なのは、まず、実行委員会で講座を実施し、試行錯誤しながら、最終的にこの形に持って行くことがベストだと考える。そしてこの実行委員会で企画-実施する講座は生涯学習センターが新たに設ける「学び返し」講座であるということを明確にし、講座の位置づけをはっきりすべきである。実行委員会を設置するにあたっては、生涯学習センターを中心として文化センターや市民活動センタープラッツ等と協力してやっていく形が望ましいと思う。生涯学習審議会としてはこのような形で~~を~~提案するのが良いのではないか。

会長：　最初の文章の「設置する」の前に「生涯学習センター」を追加して、生涯学習センターの方にも協力いただける形にした方が良いと思う。

委員：　生涯学習センターは、生涯学習活動の拠点ではあるべきだと思う。また、実行委員会もなるべく早く設置できたほうが良いと思う。また、府中市が参加すれば、他のＮＰＯ等のすでに活動しているようなところと一緒に動く必要は無いように思う。

委員：　実行委員会の立ち上げと同時に、生涯学習センターが既にやっている講座に新たに「学び返し」講座を組み入れ、講座の委託内容に含めてもらうのが良いと思う。

会長：　実行委員会でどのような講座が良いか考えるのは、生涯学習ファシリテーター等の市民の方が中心となり、実際に講座を実施する際には、生涯学習センターの講座に組み込む。

会長：　生涯学習センターで実施する講座を企画するために実行委員会を作る。そこには、生涯学習センターの職員にも入ってもらいたい。

委員：　こういうことができるところに委託するのが良いのではないか。市民活動センタープラッツを表記しない事には賛成。表記しないことで、他のいろいろな団体が参加できる可能性があるのではないか。

会長：　それでは、「設置する」の前に「生涯学習センター」を追加させていただく。コミュニティスキルの講座も実行委員会で考えていくという内容を追加したいと思う。そして、基本施策１の２の２段落目の部分のコミュニティスキルの説明をもう少しわかりやすい表現を入れたいと思う。

委員：　基本施策１というのは、「場」の話である。「場」の話の中にコミュニティスキルの話を入れるのは納まりが悪い気がする。

会長：　その辺がわかるように表記したいと思う。

委員：　あくまでも基本施策１では、「場」を拡大することをはっきり明言する箇所だと思う。それを踏まえて基本施策２では、どのような講座を企画した方が良いかという展開になると思う。コミュニティスキルは、地域力を醸成するためのスキルである。地域力は、ソーシャルキャピタルとほぼ同じ。これを支えるのが、信頼、ネットワーク、規範で

ある。信頼、ネットワーク、規範は黙っていても身に付くものではなく、学ばなければいけない。そのための講座を作るというのが基本施策２であり、それを検討するのが実行委員会という流れが良いのではないかと考える。

会長:　ソーシャルキャピタルという言葉をあまり使わないようにしている。理由としては、ソーシャルキャピタルは物事の分析にはよく使っているが、それをどのように高めたら良いのかについては統一された理論が無いようである。ソーシャルキャピタルを高めると書いても、実際どうするのかが難しいと思ったため、コミュニティスキルについてソーシャルキャピタルという言葉を使わずに具体的に表記した。

委員：　ソーシャルキャピタルには様々な分析や研究の蓄積があるが、どうすれば醸成されるのかという具体的な理論は少ない。もしこのことに言及するとなれば、かなり先駆的になると思う。その意味も込めてチャレンジングかなと思い、提案した。ソーシャルキャピタルというのは、かなり流布していて、伝わる確率が高いと思い、提案したが、カタカナを避けた方が良いという形であれば、地域力という表現でも良いのではないか。

会長：　３ページの第２段落の中に、コミュニティスキルをはぐくみ育てる学習活動がなぜ基本施策１に入っているかわかりやすくなるように、新しい形の「学びの場」を作ることによって、参加の場を広げていくということを説明する。コミュニティスキルについては、協働の力、信頼、ネットワーク、規範等の言葉を使い、説明したいと思う。

委員：　コミュニティスキルは、「学び返し」講座の中で参加者が相互に話し合いながらスキルが磨かれるため、基本施策２に入れた方が良いのではないか。「学び返し」をすること自体がコミュニティスキルの醸成につながる。

会長：　地域の課題解決・問題解決型の「学び返し」もある。福田委員がおっしゃっていたのは、コミュニティスキルと言えるようなコミュニケーションやネットワークを作るスキルがあると良いのではないかという意見。津田委員がおっしゃっていたのは、「学び返し」をすることでコミュニティスキルが身に付くという意見なので、微妙にずれているが、ここを突き詰め始めると難しくなってしますため、この部分は実行委員会の中で話すものだと思っている。

委員：　コミュニティスキルという言葉は、そこまで成熟してお

らず、他のところできちんと使われているとは思わない。オレゴンのポートランド州立大学の中でシビックスキルの講座があり、そこではシビックスキルを市内で形成しないと地域が活性化しないと言っている。シビックスキルをそのまま使うのは必ずしも適切とは言えないので、コミュニティスキルと言い換えた。

会長：　コミュニティスキルを基本施策２に移してしまうよりは、基本施策１にも入れておいて、参加の場を広げていくことにもつながるという形にしたほうが良いと考える。そして、２ページ下のＰＤＣＡサイクルの注釈が消えてしまっているが、本文中にＰＤＣＡサイクルという言葉が出てくるため、再度表記する。

委員：　基本施策１の１について、もう少し生涯学習センターが問題意識を持てるような表記にした方が良いのではないか。

委員：　「第３次府中市生涯学習推進計画」では、ＰＤＣＡサイクルは最後に乗っているのに、この内容は最初に来ている。

会長：　「新たな参加を促すための学習環境づくり」にはこれが必要であるということを強調したいということになっている。あえて最初に書くことでわかっていただきたい。

会長：「ＰＤＣＡサイクルを実施することが必要」の部分を「ＰＤＣＡサイクルを強化することが必要」という表現にするだけでも効果はあるのではないか。

委員：　基本施策３の答申のポイントとなる提言の１つ目の「広報事業をよりよく」という部分を「広報事業を強化」にした方が良いと思う。また、基本施策３の１の３行目の「紙媒体」という表記を、答申のポイントとなる提言の表現に揃えて「アナログメディア」にした方が良いと思う。最後に、８行目の「さらに」という表記は「今後は」の方が良いと思う。

会長：　そのように修正する。９ページの「他市の生涯学習情報システムの調査」とは、具体的にどのようなことをイメージされたのか。

委員：　内容について詳しく分からないが、インターネットで「生涯学習情報システム」と検索すると、さいたま市や鹿児島市、神奈川県、熊本市、茨城県、東京都、宇都宮市、徳島県等、いろいろと出てくる。そこは１つのサイトになっていて、生涯学習関係の情報が網羅されている形となっている。市と委託業者が管理しているようだ。広報の手段とし

て非常に有効だと考え、提案した。

会長：　来年度は関東甲信越静社会教育研究大会東京大会が府中市であるため、他市の事例を勉強できると思う。

委員：　９ページの３段落目の３行目の「それぞれ」は削除した方が良いと思う。また、４段落目の３行目の「生涯学習の発展」を「生涯学習のさらなる発展」とした方が良いのではないか。

会長：そのように修正する。

委員：「～ではないでしょうか」という表記が多く出てくるが、言い切りの形で表記する良い。

会長：　検討して修正する。

委員：　コミュニティスキルをどのように書き込むかで変わってくると思うが、基本施策２の１について、学べばどうして協働ができ、問題解決につながるのかというロジックがよくわからない。

会長：　個人が問題に直面して学ぶことも大事な事であるが、共に学ぶ人がいることで新しい事を一緒に学び、それによって協働が生まれやすいと考える。また、個人で学ぶよりも集団で学ぶ方が多くのことが学べるのではと思っている。

委員：ご説明ありがとうございました。

委員：　「学び返し」の新たな展開の中に、参加する人が学ぼうとする意識を持っていない。何かを学習しようとして問題解決の中に入ってくるものではない。そこに「学び返し」の学びが入っていることで混乱が生まれる可能性がある。一緒に課題解決をするプロセスの中に実は学びがあるのであって、学ぶこと自体を目指しているわけではないというところに説明の難しさがある。

会長：　そういう考え方ももちろんあるが、自分で抱えている悩みについて１人で学び始めた。そこに同じ悩みを抱えて人が来て、一緒に学んでいるうちに、一緒にやれることがあるのではという発見があり、動き出すという事もある。つまり、学びから始まって活動につながっていくこともある。

委員：　４ページには、なぜ問題解決には学びが必要なのかの記載がある。また、会長がおっしゃるように、学びが新たな課題や問題を見つけ出すということもあると思う。

委員：　先ほど津田委員から出た意見で、７ページの基本施策３の１の８行目の「さらに」を「今後は」にした方が良いのではという意見があったが、その後にも「今後」という言葉が出てくる。

会長：　７ページの基本施策３の１の８行目の「さらに」を削除することにしたいと思う。

委員：　基本施策１の３の中でオンラインの活用の記載があるが、同じように基本施策２の文化センターにもオンラインに関する内容を入れて、多少配慮があった方が良いのではないか。

会長：　検討して記載する。最終的な表記等については、正副会長一任という形にさせていただきたい。最後にタイトルについてだが、前回主題を「新たな『学び返し』の展開を目指して」と決めたが、今回はサブタイトルをどうするか決めたい。提案としては、主題のみでもわかりやすいため、サブタイトルは無くても良いと思っているが、どうか。

＜＜承認＞＞

委員：表紙に「第９期」という文言は入れなくて良いのか。

会長：追記する。

委員：　２ページの２行目にも「府中市生涯学習審議会」の前に「第９期」と入れて欲しい。また、第３次府中市生涯学習推進計画の計画期間も追記して欲しい。

会長：追記する。今後のスケジュールについての説明を事務局にお願いする。

事務局：　最終的な表記については、正副会長と事務局で調整させていただく。３月２９日（月）に答申書を提出する予定。提出した答申書は、別途お送りさせていただく。

委員：答申書の提出後、答申書はどこに置かれるのか。

事務局：　白糸台文化センター、西府文化センター、情報公開室、市民相談室にて公開される。

委員：生涯学習センターに渡すのか。

事務局：　生涯学習センターや関係課等にも情報提供をする。また、教育委員会にも報告をする。

委員：過去の答申一覧はあるのか。

事務局：現状一覧にはしていないため、今後対応していきたい。